

**地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業
取組の概要推進委員会からの主なコメント**

		整理番号	8
代表校名 (連携校名)	熊本大学(崇城大学 計1大学)		
事業名	医療デジタル機器・ITを活用し地域医療を改新する薬剤師育成プログラム～へき地医療崩壊・災害医療の問題を抱える南九州・沖縄地域からの次世代薬剤師像の提案～		
事業責任者	大学院生命科学研究部長 尾池 雄一		
事業の概要			
<p>南九州・沖縄地域は長らく薬剤師不足・地域偏在問題を抱えてきた。加えて、医療過疎の山岳・離島などを抱えている。また、南九州は台風、集中豪雨や地震等の災害が多く発生している。これら地域的背景から、へき地・災害に対応する技能・知識を有した薬剤師養成が急務である。熊本大学と崇城大学の強みと、これまでに構築した連携機関(九州保健福祉大学、各県病院薬剤師会・薬剤師会・行政)との関係を基盤に、①“南九州の医療問題”を学び、未来を検討する産学官連携の演習、②デジタル医療デバイスやVR等のITを駆使した遠隔医療・薬学管理実習、③医学部・薬学部合同の多職種連携実習における最先端へき地医療・災害医療実習、④地域医療の醍醐味や南九州の魅力を科学して情報発信する実践演習を実施する。過疎地・被災地の薬学管理デジタル・トランスフォーメーションを加速させ、自然とデジタルが調和した令和の薬剤師職能ロールモデルを提示する。</p>			
選定委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○南九州の薬剤師不足、地域偏在に加え、医療過疎の山岳・離島などを抱え、また豪雨や地震等の災害が多く発生している。これら地域的背景から熊本大学と崇城大学の強みとこれまでに構築した連携機関との関係を基盤に、医療デジタル機器・ITを活用した地域医療を改新する薬剤師育成プログラムとして高く評価できる。</p> <p>○デジタル医療機器や医療MaaSなど最新のテクノロジーを活用する方向性は、先進的であり、取り組みの波及効果を含め期待できる。</p> <p>○教員、事務補佐員、連携協力者と多様な関係者が協力して事業を推進する体制が評価できる。</p> <p>○地域医療の問題解決を主導する薬剤師の養成・医療人材不足の解消に寄与できるデジタル武装した次世代薬剤師職能のコンセプト提案・デジタル医療と大自然が調和した職場としての南九州の魅力を全国に発信など大きな成果が期待できる。</p> <p>○経年的に新規カリキュラムが展開されており、経費も妥当である。</p> <p>●プログラムが特定の地域(南九州地域)に焦点を絞っているため、その地域以外の学生や薬剤師にとっては参加へのハードルが高くなる可能性があり、改善が望ましい。</p> <p>●VR教材や動画コンテンツの作成を行うという点は先進的だが、それらのコンテンツのアクセシビリティや利用可能性について明確な計画がない。</p> <p>●学習成果の可視化や教員の評価・改善の取り組みが行われているが、具体的な課題や改善策については記載がなく改善が望ましい。</p> <p>●事業の実現可能性に関する具体的な数値やデータが示されておらず、評価の客観性や妥当性についての裏付けが不十分である。</p>			